

D/S

この度はカメラ一台持って走り回った去年の記録をもとに個展を開催する運びとなりました。写真シリーズ2作品、映像作品1本の記録はそれぞれ異なる風景を写し出しています。そこに通底する志向は、「媒介を通じて撮影者と被写体が繋がりを持つ」という当たり前の常識です。シャッターを切る時、そこに立ち現れるのは紛れも無く撮影者自信の姿であり、鏡のように被写体との関係を写し出します。それは高田有輝という人間を客観的に見直す体験でもありました。同時にまだ見ぬ自分の知的、美的関心の領域を発見したいと思うようになりました。今回の展示はその過程を示すものとなっています。

D = distance

S = speed

T = time

$D \div S = T$ (距離 ÷ 速さ = 時間)

異なる表現形式によって生まれる鑑賞体験。作品との距離、好みの速度での鑑賞の後、結果として記憶に長く残るような展示になることを願います。

最後に、この展示の為に協力いただいた東京工芸大学中央図書館の武中さん、同じく図書館関係者の皆様、展示前の準備、的確なアドバイスをくれた同志である武川くん、そして被写体の皆様に感謝します。

高田有輝